



人の輪と集落の和

平成18年度事業報告書 平成19年度事業計画書



目 次

ごあいさつ	1
第 8 回通常総会次第	2
第 8 回通常総会提出議案	3
平成 1 8 年度事業報告書	
部門別事業報告	4 ~ 1 9
貸借対照表	2 0
損益計算書	2 1 ~ 2 3
平成 1 8 年度剰余金処分案	2 4
付属明細書	2 5 ~ 2 6
監査報告書	2 7
平成 1 9 年度事業計画書	2 8 ~ 4 1
組織図	4 2

組合員のみなさまへ

本日ここに第8回の通常総会を開催するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。昨年、代表理事を仰せつかって早一年、組合員の皆様はもとより関係各位のご支援に対し厚く御礼申し上げます。

平成18年度事業面では、地球温暖化による不順な気候に対応した栽培技術がともなわず全作物とも収量減となりました。さらに、穀類価格の低迷と野菜価格の下落が追いつけを掛け、売上に悪影響を及ぼすこととなりました。

新設営業部は十分な機能発揮ができなかったものの、発足の精神である「売る」意識が醸成されたことで、役員はもとより組合員皆様の原価意識が芽生え、生産コストの引き下げにつながりました。また、区民、組合員、地権者皆様の理解と協力による営農組織づくりの結果が「担い手」をつくりあげ、育成施策の中ではトップクラスの交付金・助成金単価の対象となり、収益に大きく貢献しました。

本年度からは、さらに「担い手」を対象を絞った政策に変わります。まさに戦後農政の中で、大きな転機を迎える年といっても過言ではありません。

そのような情勢の中 昨年9月、県内トップを切って、「品目横断的経営安定対策」に加入申請をしました。これにより、当面の経営に見通しがついたものの、将来を約束したものではありません。そのため、経営の効率化と組織体制の強化を加速させ、いち早く「自立した担い手」とならなければなりません。

平成17年時点、「耕作放棄地」は15年前より70%増の約38万haと、埼玉県面積に匹敵し、「耕作地」の1割にまで広がり、その受け皿であるはずの農地が急激に減少しています。また反面、農業従事者のうち65歳以上の高齢者が占める割合が約59%と、15年前の2倍に増えています。

このまま、高齢化と人口減少が続けば、農村集落そのものが消滅してしまいます。つまり、地域農業の維持には「集落営農組織」が不可欠なのです。

そのため、今年より「農地・水・環境保全向上対策」が始まります。別名「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」のとおり、農地や農業用水などの資源を保全し、地域の生態系や田園景観を集落ぐるみで守ろうとするものです。

本年度を「集落営農元年」と位置づけ、原点にたちかえり、「人の輪と集落の和」を改めて見直し、第三次3ヵ年計画の総仕上げに邁進する所存です。

平成19年2月25日

人は、人の為に成らずして、人にあらず

農事組合法人 酒人ふぁ～む

代表理事

東浦常夫

第8回通常総会次第

と き：平成19年2月25日(日)

午後1時30分より

ところ：酒人公民館 2階大広間

1. 開会のことば
2. 代表理事あいさつ
3. 来賓ご祝辞

(休 憩)

4. 総会成立宣言
5. 議長の選任
6. 書記の指名
7. 議事
8. 閉会のことば

議長氏名	
------	--

議事録署名人	議長および出席理事
--------	-----------

組合員数	56人	出席人数	人
------	-----	------	---

第 8 回通常総会提出議案

- 第 1 号議案** **平成 1 8 年度事業報告について**
平成 1 8 年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案及び附属明細書の承認について
P 4 ~ P 2 7
- 第 2 号議案** **平成 1 9 年度事業計画の承認について**
P 2 8 ~ P 4 0
- 附 帯 決 議** この総会において決議した事項のうち、行政庁に提出する書類で補正・変更を必要とする場合は、その趣旨に反しない範囲内において、その変更を理事会に一任する。

以上のとおり上程いたします。

平成 19 年 2 月 25 日

農事組合法人 酒人ふぁ～む
代表理事 東 浦 常 夫

平成18年度事業報告書

部門別事業報告

生産部

[栽培]

平成18年度は、天候による影響が強く、全般的にあまり芳しい成績を収めることができませんでした。特筆点は環境に配慮した畦畔の草刈りが、有志チームのお陰で行き届き、多くの視察者から感銘を受け当集落の結束力の強さを内外にアピールすることができました。

作物別に報告いたしますと、水稻においては新しくミルキーQueenを加えて昨年同様7品種の栽培とし、それぞれの特性に応じた作付体系を組み、こだわり農産物としての品質向上に努めました。また、野菜後においても二毛作に取組み圃場の有効利用と労務の分散をはかることができました。にもかかわらず、7月中旬以降の多雨、寡照の為に幼穂形成等の遅れや小出来により、収量的に厳しい結果となり。毎年技術力アップに取り組んではいるものの増収増益につながらないことが残念です。耕畜連携・資源循環型農業の確立に向けスタートした稲わら供給事業は、稲わらチームのお力で一部11月下旬以降を除き、水稻収穫後順調に収集することが出来ました。

麦につきましては、前年度の稲わら集積の遅れや、暗渠排水工事により播種時期が大きく遅れました。また、2、3月の雨と春先の低温による莖数不足、さらに、5月中旬以降の赤カビ発生により2回防除を行いました。結果として品質ならびに反収の低下を余儀なくされました。

大豆においては、昨年に続き種子の採取圃に取り組み、「種子大豆」をメインとした栽培による付加価値を求めてのシフトではありましたが、7月の多雨、寡照により播種時期が8月までずれ込みました。その結果、短莖になり反収は麦同様、昨年を下回る結果となりました。

野菜につきましては、露地野菜が天候の影響に即応した栽培管理がともなわず苦慮しました。ハウス野菜は、11月下旬までトマトが収穫できるなどなごやかグループの活躍により順調な成績を収めました。

中期計画の重点方針である、「品質・環境にこだわった農業の展開」では、「JA特別栽培米を含むすべての米・食糧用大豆において環境こだわりを取り組みました。今後、暗渠排水工事の完工をプラス要因として、最適な栽培を目指す所存です。

また、重点方針の「儲ける農業の実践」も「売るために作る」まで踏み込めなかったことは反省すべき点です。



穀類生産実績

水			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
稲	うるち玄米	5月植	1,424	517	8.6	73,684	1,228
		6月植	229	463	7.7	10,595	177
	小	計	1,653	510	8.5	84,279	1,405
	もち(羽二重)玄米		475	470	7.8	22,343	372
	合計		2,128	501	8.4	106,622	1,777

小			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
麦	農林61号		1,560	173	2.9	27,034	451
	合計		1,560	173	2.9	27,034	451

大			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
豆	ふくゆたか	種子用	660	129	2.1	8,500	142
		食糧用	671	131	2.2	8,772	146
	合計		1,331	130	2.2	17,272	288

野菜栽培形態別生産実績(年間)

露	品目	生産量	
		総収量(kg)	出荷量
地	ブロッコリー	4,209	842箱
	白菜	12,525	835箱
	キャベツ		250個
	えびす南瓜		421個
	玉ねぎ	10,500	10,500kg
	切花(小菊)	-	340束

ハ	品目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
ウ	小松菜	20.3	272kg	1,360束	5,521kg	27,607束
	サニーレタス	14.6	154kg	769束	2,245kg	11,223束
ス	トマト	4.0	357kg	89箱	1,428kg	357箱
	みず菜	16.7	80kg	401束	1,340kg	6,701束

耕畜連携稲わら生産実績（JA稲わら生産供給組合）

稲 わ ら		採集面積 (a)	10a当り		生産量	
			収集量 (kg)	梱包 (10kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
	飼料用稲わら	1,300	376	38	48,890	4,889
	合計	1,300	376	38	48,890	4,889

[労務]

18年度より 生産コストの低減 作業環境の向上を重点方針に挙げ、労務管理計画を作成し取組を開始しましたが、日常の業務の中で、思うように検証が出来ませんでした。にもかかわらず、組合員各位それぞれの立場にたったコスト意識に助けられ、下記の結果となりました。

組合員が共に喜び合え、楽しく作業ができる体制に努めて参りますので、今度ともご協力宜しくお願い致します。

労務管理実績表（年間）

（単位：時間）

	計画時間	実 績					合計	計画対比
穀類 部門	5,430	一般作業 3,000	機械OP 1,330	大豆選別 1,200	草刈り 1,000	水管理 202	6,732	124%
稲わら 部門	520	OP 106	すこやかG 390				496	95%
露地野菜 部門	4,660		すこやかG 3,100	草刈り 100			3,200	69%
ハウス 部門	3,330		なごやかG 2,721	水管理 152			2,873	86%
共通	1,870	事務管理 1,286	機械施設管理 800	その他 730			2,816	150%
合計	15,810						16,117	102%

営 業 部

機構改革の目玉であったにもかかわらず、手探りの状態で具体的活動がもう一步であったことを報告申し上げます。ただ、営業に対する意識は着実に高揚しつつあり、生産部と連携した動きが定着して来ました。

穀類市場（マーケット）別実績

水	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
		うるち玄米	875	12,800	11,242,398
		もち（羽二重）玄米	362	18,200	6,605,352
		小 計	1,237	14,400	17,847,750
稲	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）	販売高（円）
		うるち玄米	529	16,600	8,794,400
		もち（羽二重）玄米	11	20,000	220,000
		小 計	540	16,700	9,014,400
		合 計	1,777	15,100	26,862,150

小	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
		農林61号	451	9,806	4,422,328
	麦	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）
		農林61号	-	-	-
	合 計	451	-	4,422,328	

大	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
	ふくゆたか	種子用	134	28,500	3,825,000
		食糧用	146	13,800	2,015,672
		小 計	280	-	5,840,672
	豆	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）
ふくゆたか		種子用	8	24,000	190,618
		食糧用	0.5	10,000	5,250
		小 計	8.5	-	195,868
		合 計	288	-	6,036,540

野菜栽培形態別販売実績

露地	品 目	出 荷 量	売価単価（円）	販売高（円）
	ブロッコリー	842箱	1,310	1,103,533
	白 菜	835箱	592	495,380
	キャベツ	250個	112	28,455

	えびす南瓜	421 個	161	67,780
	玉ねぎ	10,500 kg	47	498,755
	切花(小菊)	340 束	204	69,360
	その他野菜			133,337
	小 計			2,396,600
ハ ウ ス	品 目	出荷量	売価単価(円)	販売高(円)
	小松菜	27,607 袋	65	1,794,455
	サニーレタス	11,223 袋	65	729,495
	トマト	357 箱	1,500	535,375
	みず菜	6,701 袋	57	381,957
	その他野菜			5647
	小 計			3,446,929
	合 計			5,843,529

野菜市場(マーケット)別販売実績

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (-)	販売高 (千円)
	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)	数量 (袋、束、個)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	721	962			1,121	142				1,104
白菜	770	451			301	44				495
キャベツ	131	14			119	14				28
えびす南瓜			303	51	118	17				68
玉ねぎ	9,870	380			630	119				499
切花(小菊)					340	69				69
小松菜	21,922	1,418	2,088	134	3,410	242				1,794
サニーレタス	10,230	665	90	5	891	59				729
トマト	244	323	103	111	248	101				535
みず菜	6,155	331	50	1	496	50				382
その他						89		50		139
合 計		4,544		302		946		50		5,844

業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

耕畜連携稲わら販売実績(JA甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲 わ ら	業 販	出荷量(梱包)	出荷単価(円/梱包)	販売高(円)
		配 達		
	飼料用稲わら	4,889	450	2,200,000
	引 取			
	合 計	4,889	-	2,200,000
	JA稲わら生産供給組合必要経費			417,142
	差引売上合計			1,782,858

機械施設部

平成18年度は、乾燥調整施設の環境整備に注力してまいりました。

昨年度の籾殻搬出庫の併設につづき、排塵庫に散水栓を設置し、水滴による飛散防止措置を致しました。完全とは申せませんが粉塵量の抑制に効果を発揮しました。今後とも、防塵については研究し、その都度対策を講じてまいる所存であります。

また、計画していましたが中古の軽トラックを取得し、オペレーターのみならずグループを越え幅広く利用しています。



人材面では、約半年間「機械施設管理者」を設置し、一定の成果をあげることができました。原則平日勤務体制とし、土・日・祝日出役のオペレーターのために機械施設の事前準備、事後の整備・点検・清掃を担当いただきました。心強い「裏方」の存在で、作業効率向上に寄与しました。

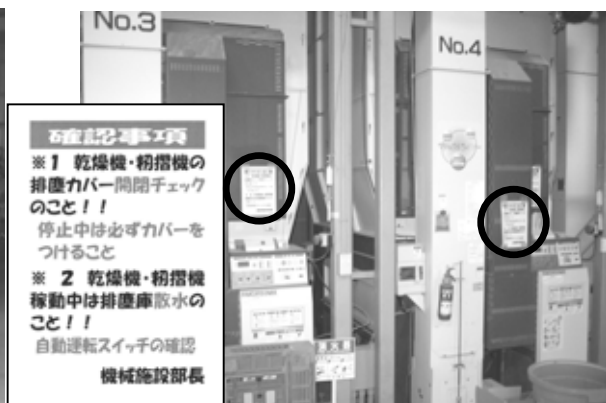
ただ、その後継者が育成できなかったことは大いに反省すべきところです。大型汎用コンバインによる大豆の収穫や収穫米の乾燥調整などは、高い技術を要求されることからベテランオペレーターに頼らざるを得ない状況は依然変わっていません。機械オペだけでなく、整備の技術もまだまだ見劣りします。

ベテランオペレーターは理事（役員）がほとんどです。役員に頼らないためにもオペレーターの育成が今後の重要課題です。

取得した施設・備品の主なもの

（単位：円）

取得資産名	取得額	圧縮額
中古軽トラック スバルGD-TT2	330,000	0



企画管理部

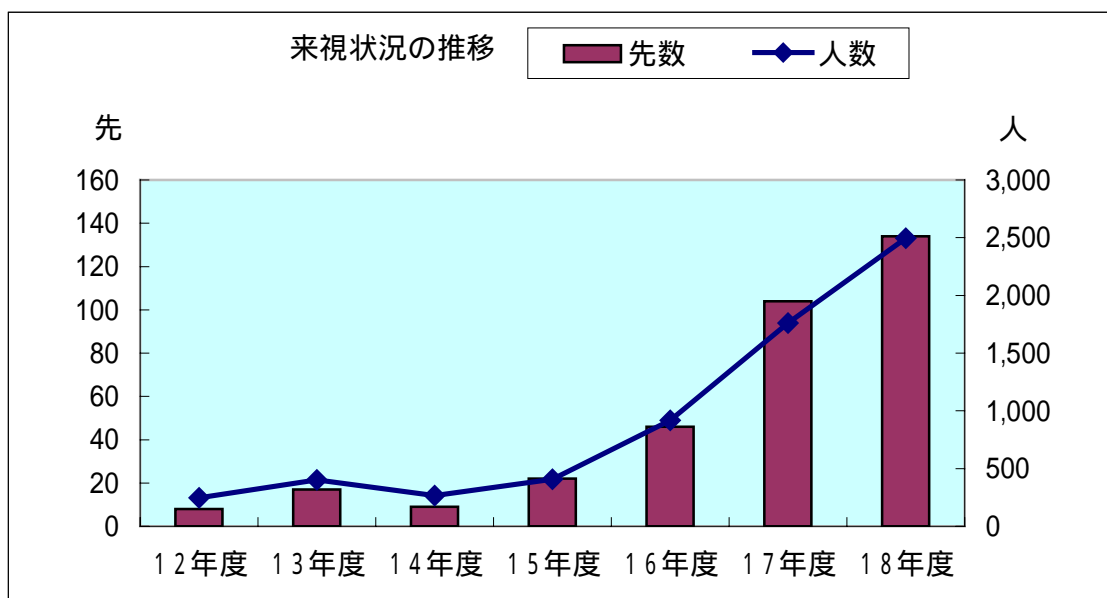
昨年度に続き、視察と取材のラッシュに追われた1年でした。組織の機構改革はできたものの、「儲ける農業」に向けた販売連動型生産体制やコストを意識した経営体質への改善が図れなかったことは反省点です。

【主に取り組んだ内容】

来視者過去最高記録を更新～累計300団体6,000人突破！（別紙参照）

来視	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
先数	8	17	9	22	46	104	134
人数	247	403	267	408	918	1,760	2,494

これまでに延340団体、6,497人もの方が視察に来村されました。



滋賀県農業法人労務協会への加入

会員である滋賀県農業法人協会の中に、労働保険事務組合「滋賀県農業法人労務協会」が設立され、2月に加入し、4月から事務委託をしました。協会会員は年会費が無料で、事務経費軽減が図れました。

進化したイルミネーション

クリスマスの前後1ヶ月間、恒例となりました「ミニルミナリエ」がスケールアップしました。殺風景な拠点施設にネオンサインが点滅し、厳しい農業環境を吹き飛ばす明るい話題となりました。

（日本農業新聞 19.1.11 掲載）



取材ラッシュ～知名度は全国版！

メディア	月 日	内 容
日本農業新聞	4 / 13	「女性たちの担い手宣言」なごやかG取材
日本農業新聞	4 / 27	「担い手、農政改革で参考人質疑」衆院農水委
日本農業新聞	5 / 1	「女性の能力活用を」JA全中女性参画提起
日本農業新聞	8 / 8	「耕畜連携で効果」稲わら生産供給組合
オペレーションズ・リサーチ	5月号 Vol.51	「特集食料問題とOR」～「儲ける農業」にチャレンジ
日本農業新聞	9 / 2	「経営安定対策加入申請始まる」トップ申請
農林漁業金融公庫	2006/10月報	「人の輪と集落の和」で「儲ける農業」を目指す
食料・農業・農村白書	第164回国会提出	先進的な集落営農の取組事例(17年度白書)
KBS京都	8 / 26	WTO特別番組(びわ湖放送放映)
「鹿深老ク連」	2007.1第4号	「人の輪と集落の和」で土と戯れ命育む
「農業と経済」	2007/1・2合併号	座談会「地域が切り拓く日本農業」(株)昭和堂
滋賀県議会だより	第40号	12月定例会代表・一般質問から「集落営農のオペレーター」
農林漁業金融公庫	2007/2月報	「農政改革いま現場では」へのコメント

「農業経営基盤強化促進法の改正」9月から施行

平成17年6月3日国会にて「農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律案」が可決・成立し、9月1日に施行されました。法改正前に認定された「酒人地区特定農用地利用規程」は、経過措置期間である1年以内に、内容を見直し、市の再認定を受けなければ無効となるところでした。

そのため、酒人農用地利用改善団体による臨時総会にて、「酒人地区特定農用地利用規程」を変更し、地権者の皆様に承認いただきました。

新理事体制スタート

昨年の総会での承認で東浦代表理事による新体制がスタートしました。組織改変の目玉でありました「営業」部門は、十分な活動成果は得られませんでした。理事の意識付けと次年度につなげる課題のきっかけとなりました。



すこやか営農グループに作業応援チーム発足

4月、グループ間応援体制の第一歩として、すこやか営農グループ有志のメンバーにより発足しました。「畦畔管理チーム」は、オペレーターの草刈り作業を引き受けていただき、「ハウス野菜チーム」は、なごやか営農グループやオペレーターを助けていただきました。

また、稲わら収集・運搬作業も応援いただくなど、卓越した技能と経験を発揮し、当組合に貢献されました。

【平成 18 年度来視状況】

月 日	来 視 先	内 容	人 数
1 / 13	宮崎県農政水産部	関西地区農畜産物生産・流通研修	19
1 / 18	滋賀県立大学環境科学部 羽田野	集落営農調査研究	1
1 / 19	J A とまこまい広域青年部	先進事例視察	10
1 / 20	宮城県古川地方振興事務所	先進事例視察	4
1 / 24	三重県いなべ市員弁町北金井農家組合	先進事例視察	10
1 / 27	鹿児島県日置市、J A さつま日置	先進事例視察	3
1 / 28	三重県大山田農事生産組合協議会	先進事例視察	46
1 / 29	近江八幡市倉橋部町農業改革推進委員会	先進事例視察	13
2 / 2	岐阜県垂井町機械化営農組合連絡協議会	先進事例視察	45
	秋田県普及指導員	先進事例視察	3
2 / 7	静岡県袋井市農業振興会	先進事例視察	27
2 / 10	長野県上伊那郡南箕輪村議会	先進事例視察	7
2 / 16	石川県羽咋市農業委員会	先進事例視察	20
	福岡県うきは市 J A にじ	先進事例視察	12
2 / 17	埼玉県春日部農林振興センター	先進事例視察	1
2 / 18	亀岡市河原林町営農組合	先進事例視察	40
2 / 21	香川県仲南町農業経営者協議会	先進事例視察	17
2 / 24	農林水産省農村振興局	平成 17 年度 種試験採用者研修	7
2 / 27	徳島県徳島農林事務所	先進事例視察	12
2 / 28	湖東地域農業担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	60
3 / 2	岐阜県美濃加茂市可茂米麦改良協会	先進事例視察	18
	福井県奥越農林総合事務所	先進事例視察	28
3 / 5	福井市春江町担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	11
3 / 8	滋賀県立農業大学校 作物専攻生	校外研修	10
3 / 11	三重県朝久田営農組合	先進事例視察	21
	長野県東春近集落営農実践委員会	先進事例視察	50
3 / 12	伊賀市玉滝地域町づくり協議会	先進事例視察	25
	守山市十二里町農業組合	先進事例視察	10
3 / 18	三重県上野南受委託運営推進協議会	先進事例視察	35
3 / 21	石川県 J A 根上	先進事例視察	79

月 日	来 視 先	内 容	人 数
3 / 2 5	日本農業新聞	なごやかG取材	1
3 / 2 7	岐阜県揖斐川町農業委員会	先進事例視察	1 9
4 / 3 0	滋賀県農林水産部長 橋本氏ほか	農業濁水対策集落パトロール調査	6
5 / 9	J A 滋賀中央会担い手対策室	集落営農組織実態調査	3
5 / 1 3	兵庫県蛸草農用地利用改善団体	先進事例視察	1 8
5 / 2 6	石川県七尾西部地区	先進事例視察	1 4
5 / 2 7	福岡県農業会議南筑後支部	先進事例視察	1 0
5 / 3 0	富山県砺波市農業委員会	先進事例視察	2 2
6 / 3	東近江市上南町	先進事例視察	6
6 / 6	栗東市農業委員会	先進事例視察	1 7
6 / 1 0	兵庫県丹波市小倉農会	先進事例視察	1 2
6 / 1 2	近畿農政局小泉整備部長	野洲川沿岸地区現地調査	5
6 / 1 4	滋賀県農業会議、県農業技術振興センター	集落合意形成マニュアル作成	3
6 / 2 4	長野県駒ヶ根市北割1区営農組合	先進事例視察	1 7
	富山県南砺市農事組合法人小山	先進事例視察	3 7
6 / 2 5	鈴鹿市牧田地区の農業を考える会	先進事例視察	3 0
6 / 2 9	農水省経営局構造改善課長補佐	課題・要望聴取～農地、支援措置	2
	新潟県上越市中江土地改良区	先進事例視察	7 8
7 / 2	石川県能美市牛島町生産組合	先進事例視察	3 0
	京丹後市農業技術者協議会	先進事例視察	4 9
7 / 5	鹿児島県川辺町農業委員会	先進事例視察	1 7
	大分県宇佐市議会	先進事例視察	1 7
7 / 7	室戸市農業委員会	先進事例視察	1 7
7 / 8	島根県福富営農組合	先進事例視察	2 0
7 / 9	福井県大野市創生会	先進事例視察	1 7
	岐阜県関市千疋営農推進協議会	先進事例視察	2 0
7 / 1 2	高知県四万十町議会	先進事例視察	2 2
7 / 1 3	長野県安曇野市J A あづみ	先進事例視察	7
	北海道当別町水稻採種組合、茂平沢農場	先進事例視察	3
7 / 1 6	愛知郡愛荘町軽野集落	先進事例視察	2 9
7 / 1 7	米原市飯営農組合	先進事例視察	2 5
	東近江市鑄物師町農業組合、営農組合	先進事例視察	2 2

月 日	来 視 先	内 容	人 数
7 / 1 9	J A 金沢市三谷やちや部会	先進事例視察	1 5
7 / 2 0	J A 能登わかば鳥屋稲作部会	先進事例視察	1 1
7 / 2 1	福井県勝山市酒米生産組合連絡協議会	先進事例視察	1 7
7 / 2 2	兵庫県三木北部土地改良区、営農組合	先進事例視察	8 0
7 / 2 3	J A 福井市 木下工区委員会組合員	先進事例視察	1 5
7 / 2 5	徳島県小松島市 J A 東とくしま	先進事例視察	3 5
	近畿農政局総務部総務課秘書係長	視察	4
7 / 2 9	福井県坂井市 J A はるえ	先進事例視察	1 6
7 / 3 0	福井県坂井市ふくい田んぼ塾生	先進事例視察	2 3
7 / 3 1	近畿農政局 長岡局次長	現地調査説明	6
8 / 3	宮城県中田町農政総合推進協議会	先進事例視察	6
8 / 5	長野県駒ヶ根市下平地区営農組合	先進事例視察	1 5
8 / 8	近畿農政局滋賀農政事務所大津統計情報センター 小岩調査官	調査	1
8 / 2 2	佐賀県農業大学校	指導農業士・青年農業士稲麦部会研修	1 0
8 / 2 4	兵庫県小野市担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	4 5
8 / 2 5	香川県中讃農業改良普及協議会	先進事例視察	2 6
8 / 2 6	長野県伊那市東春近車屋集落営農実践委員会	先進事例視察	1 5
8 / 2 7	東近江市横山生産組合	乾燥調整施設視察	1 7
8 / 2 8	宮城県加美郡色麻町長、町議会産業建設常任委員会	先進事例視察	7
9 / 1 1	J A 仙台、高砂地区転作組合	先進事例視察	2 1
9 / 1 2	岩手県農業研究センター小川室長	先進事例視察	1
9 / 1 4	岩手県花巻地方水田農業推進協議会	先進事例視察	8
9 / 1 8	福井市寮町農事組合アグリオ	先進事例視察	1 4
9 / 2 8	鈴鹿市稲生営農組合、J A 鈴鹿	先進事例視察	1 6
	鹿児島県 J A さつま支所長	先進事例視察	1 4
	岡山県玉野市農業委員会	先進事例視察	1 7
1 0 / 1	伊賀市友生地区住民自治協議会	先進事例視察	3 0
1 0 / 5	岡山県総社市三輪地区営農推進組合	先進事例視察	1 3
	大分県中部地区食料・農業・農村振興協議会	先進事例視察	2 0
1 0 / 7	島根県ファーム自彊上営農組合	先進事例視察	2 6
	近江八幡市日吉野町営農組合	先進事例視察	1 6
1 0 / 8	島根県斐川町求院営農組合	先進事例視察	2 0

月 日	来 視 先	内 容	人 数
10 / 11	甲賀県事務所田園振興課橋本係長	聴き取り調査	1
	農水省農村振興局山下整備部長	現地視察	7
10 / 18	埼玉県担い手育成総合支援協議会	先進事例視察	6
10 / 19	J A 秋田中央会	先進事例視察	26
10 / 20	福井県高志農業改良振興会	先進事例視察	28
10 / 21	石川県能美郡川北町農業委員会	先進事例視察	16
	高島市安曇川町青柳農事組合	先進事例視察	20
10 / 23	福井県大野市 J A テラル越前	先進事例視察	17
10 / 25	福井県奥越農業農村整備事業促進協議会	先進事例視察	40
	島根県出雲市平田稲作経営者会議	先進事例視察	7
10 / 26	奈良県葛城市土地改良区協議会	先進事例視察	35
	農林漁業金融公庫市村理事,大野支店長	現地視察	2
	佐賀県嬉野市議会産業建設常任委員会	先進事例視察	7
10 / 27	鹿児島県肝属地区米・麦・大豆等生産対策協議会	先進事例視察	17
	静岡県農業水産部神谷主幹	先進事例視察	1
10 / 30	山形県東根市農業委員会	先進事例視察	21
10 / 31	滋賀県農業会議渡邊コーディネーター	事例調査、研修事前打ち合せ	1
11 / 1	松阪土地改良区連絡協議会	先進事例視察	21
11 / 6	天理市和爾町農村環境保全向上活動組織員	先進事例視察	25
11 / 7	鹿児島県町村会	先進事例視察	9
11 / 8	福井県鯖江市上河端生産組合	先進事例視察	9
	大分県国東市議会産業建設常任委員会	先進事例視察	8
11 / 9	兵庫県土地改良事業団体連合会社支部	先進事例視察	25
11 / 12	山形県東田川郡三川町農業委員会	先進事例視察	12
11 / 13	愛媛県今治市食料・農業振興協議会	先進事例視察	19
11 / 15	広島県安芸高田市内農業生産法人	先進事例視察	16
	農林漁業金融公庫顧客支援部岡田調査役	アドバイザーミーティング打合せ	1
11 / 16	福島県いわき市農業委員会	先進事例視察	28
	金沢市中核農家連絡協議会	先進事例視察	25
11 / 19	兵庫県三木市殿畑営農組合	先進事例視察	26
11 / 20	滋賀県農政水産部農村振興課岸本主幹	環境こだわり栽培取材	3
11 / 26	J A 小松市南部ブロック支店	先進事例視察	29

月 日	来 視 先	内 容	人 数
1 1 / 2 6	神戸市西区神出東自治会	先進事例視察	1 9
1 1 / 2 9	京都府南丹市八木町諸畑地区	先進事例視察	3 1
1 1 / 3 0	福岡県 J A 粕屋	先進事例視察	1 5
1 2 / 2	福島県双葉郡富岡町原下機械利用組合	先進事例視察	1 0
1 2 / 8	J A 徳島中央会	先進事例視察	2 5
1 2 / 9	広島県世羅町地域農業集団連絡協議会	先進事例視察	3 3
1 2 / 1 7	東近江市湖東支所管内特定農業団体	先進事例視察	3 3
1 2 / 2 9	京都大学農学部学生（池田）	従事分量配当制の調査研究	1
合計	1 3 4 先（前年度比 + 3 0 先）	2 , 4 9 4 人（前年度比 + 7 3 4 人）	

【平成 1 8 年度講師派遣】

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
1 / 8	守山市洲本町	大曲農業組合	農業構造改革方針と事例紹介
1 / 1 2	盛岡市	盛岡地方元気な園芸産地づくり運動推進協議会	盛岡地方園芸振興のつどい
1 / 1 6	徳島県小松島市	小松島市、J A 東とくしま	集落営農活動事例紹介
1 / 1 9	香川県丸亀市	香川県中讃農業改良普及協議会	集落営農活動事例紹介
1 / 2 0	守山市	守山市環境経済部農政課	玉津地区合同集落営農研修会
1 / 2 4	福島県石川郡石川町	J A 福島中央会	集落営農・担い手支援担当者研修会
1 / 2 5	埼玉県東松山市	東松山農林振興センター	集落営農活動事例紹介
1 / 3 0	千葉県長生郡長南町	長生農林振興センター	集落営農研修
2 / 9	京都府綾部市	J A 京都にのくに	講演「担い手と位置づけられる集落営農を目指して！」
2 / 1 0	大分県国東町	東国東地方振興局農業振興普及センター	集落営農活動事例紹介
2 / 1 4	三重県津市	三重県、県水田農業推進協議会	経営所得安定対策等大綱研修
2 / 2 8	宮崎県都城市	北諸県農業改良普及センター	集落営農活動事例紹介
3 / 3	兵庫県たつの市	J A 兵庫西	営農指導員研修
	岐阜県大垣市	岐阜県農業会議	集落営農活動事例紹介
3 / 5	福井市	福井農林総合事務所	高志地区農業活性化推進大会
3 / 9	サントピア水口	あじさいネットワーク	西村美鶴 女性 G 事例発表
3 / 1 0	福井市若狭町	嶺南地域農業活性化対策協議会	集落営農活動事例紹介
3 / 1 9	高島市今津町	高島地域農業センター	集落営農リーダー交流会
3 / 2 0	京都市	近畿ほ場整備構造政策研究会	平成 1 7 年度研修会

月 日	派 遣 先	主 催	内 容
3 / 2 6	春日地区	春日農事改良組合、春日営農組合	第 5 回通常総会
4 / 9	群馬県伊香保町	J A たかさき	農事支部長研修会
4 / 2 4	愛荘町目加田地区	J A 東びわこ	特定農業団体設立会議
4 / 2 6	衆議院農林水産委員会	衆議院	参考人意見陳述
5 / 2 3	J A 甲賀郡本所	J A 甲賀郡	集落組織モデル事業担当者会議
5 / 2 7	大津市大物	J A レーク大津	担い手組織立上げ説明会
6 / 4	野洲市三上地区	J A おうみ富士	特定農業団体等研修会
6 / 8	県農業教育情報センター	J A 滋賀中央会	営農指導員ステップアップ研修
6 / 2 6	福島市 J A 福島	J A 福島女性部協議会	母ちゃんの集落営農講座
7 / 8	郡上市美並町	美並町農業生産法人連絡協議会	記念大会記念講演
7 / 9	柑子農事改良組合	柑子農事改良組合	特定農業団体設立総会
7 / 2 6	近畿農政局	大豆安定生産・需要拡大近畿地域協議会	専門委員の第 1 回協議会
7 / 3 1	東近江市池庄町	滋賀県担い手育成総合支援協議会	集落営農リーダー研修会講師
8 / 1	千葉県館山市	(社)日本アグリビジネスセンター	集落営農推進リーダー養成講座
8 / 1 0	宮崎県小林市	西諸県農業改良普及センター	集落営農リーダー養成講座
8 / 2 3	福岡 大刀洗ドリームセンター	三井地区農業振興協議会	農業振興大会
9 / 8	大分県豊後大野市	大分県豊後振興局	組織づくり研修会
9 / 1 2	J A 甲賀郡本所	J A 滋賀中央会	杉中、春日営農組合法人化相談
1 0 / 2 3	福岡県八女市	J A ふくおか八女	水田農業ビジョン研修会
1 0 / 2 4	千葉県八千代市	(社)日本アグリビジネスセンター	集落営農推進リーダー養成講座
1 0 / 2 5	福岡県筑紫野市	J A 筑紫	地域水田農業ビジョン推進対策研修会
1 1 / 1 3	東京国際フォーラム	(株)昭和堂	『農業と経済』座談会
1 1 / 1 4	キャンパスプラザ京都	大豆安定生産・需要拡大近畿地域協議会	大豆の安定生産講演会
1 1 / 1 7	福岡県久留米市	田主丸町水田農業推進協議会	法人化講演
1 1 / 2 2	守山市民ホール	滋賀県農業会議	農業委員等研修会パネラー
1 1 / 2 4	山口県下関市	下関地域水田農業推進協議会	研修会講演
1 2 / 2 2	福島県会津坂下町	(社)日本アグリビジネスセンター	アグリビジネスセミナー

【平成 1 8 年度表彰受賞】

月 日	内 容	出 席 者	会 場
6 / 2 4	J A 甲賀郡優良組合員特別表彰(通常総代会)	東浦	J A ホール

【平成18年度受講研修】

月 日	研 修	出 席 者	内 容
1 / 1 1	第2回特栽米生産者水口地区研修会	東浦	資質向上と栽培推進
1 / 1 4	集落営農営農研修会	福西、林喜	どうする!? 地域の農村・農業
1 / 2 5	農林公庫近畿地区農業経営者交流会	千廣	交流会
1 / 2 6	大豆種子採種の先進事例研修	東浦、伴、金松	木興農事実行組合視察
1 / 2 7	加工用（青ねぎ）産地視察研修会	金松、すこやかG	淡路日の出農協洲本支所
1 / 2 8	甲賀地域農業者のつどい	谷口、小林、西村	農林水産祭三賞受賞紹介
1 / 2 8	J A 甲賀郡特栽米生産部会	小林	総会
2 / 2 ~ 3	近畿府県農業法人現地交流会	東浦	現地研修・交流会
2 / 7	J A グリーン「花野果倶楽部」先進地研修	金松、すこやかG、なごやかG	兵庫県/直売所「旬菜蔵」
2 / 2 3 ~ 2 4	水口町露地野菜部会視察研修	金松	「ナコス種苗」視察
2 / 2 5	滋賀県担い手育成総合支援協議会	谷口	農業法人・集落営農交流会
2 / 2 7	J A 甲賀郡大規模稲作経営者部会	東浦	平成17年度総会
2 / 2 8	J A 甲賀郡大規模稲作経営者部会	東浦	認定農業者制度研修会
3 / 2	水口町良質米研究会	伴	総会
3 / 7	J A グリーン「花野果倶楽部」	東浦、すこやかG、なごやかG	総会
3 / 9	あじさいネットワークフォーラム	東浦、なごやかG	農村女性リーダー研修
3 / 1 0	J A 甲賀郡先進地視察研修	東浦	福井市ハーネス河合視察
3 / 2 2 ~ 2 3	滋賀県男女共同参画先進地事例研修	なごやかG（西村、藤野、林）	和歌山視察
4 / 1 1	水口露地野菜部会	東浦、金松	総会
4 / 2 5	「特別栽培米」水口地区研修会	林	栽培基準・技術確認
4 / 2 8	水口町観光協会	東浦	役員会
5 / 1 0	水口町観光協会	東浦	総会
5 / 2 4	滋賀県食品加工技術講座	東浦、なごやかG	米粉パン試験研究報告
6 / 2 6 ~ 2 7	J A 甲賀郡モデル集落営農先進地視察研修	東浦、伴	松阪市（農）コスモス
7 / 4	水口露地野菜部会	伴、林すこやかG長	秋冬野菜作付計画会議
7 / 6 ~ 7	J A 甲賀郡大規模稲作経営者部会	東浦	長野県松山(株)（ニプロ）視察
7 / 1 1	水口町良質米研究会	林	研究会
	J A 甲賀郡稲わら生産供給組合	西村、林監事、西村副部長	総会、検討会
7 / 2 4	関西経済同友会と日本農業法人協会との懇親会	東浦、福西	活力ある日本の農業
7 / 2 8	J A 甲賀郡現地研修会	東浦、伴、林、金松	トマト圃場巡回

月 日	研 修	出 席 者	内 容
8 / 2 1	J A 甲 賀 郡	西村、西村副部長	稲わら検討会
8 / 2 2	近江八幡市 ウェルサンピア滋賀	東浦、福西	集落営農型農業法人交流会
8 / 2 3	売れる麦づくり推進大会	東浦	近江米振興協会
8 / 2 8	認定農業者等経営研修会	東浦	品目横断的经营安定対策
8 / 3 0	滋賀県農業法人協会通常総会	東浦	総会、研修、分科会
	あぐりたうんトーク(酒人公民館)	理事全員	甲賀市水田農業推進協議会
1 0 / 1 1	平成19年産小麦作付け説明会	林	甲賀市水田農業推進協議会
1 0 / 1 7	水口露地野菜部会	すこやかG長	秋冬野菜圃場巡回、出荷会議
1 0 / 2 5	農林漁業金融公庫関西ブロック交流会	坂田、千廣	講演会、交流会
1 2 / 7 ~ 8	スガノ農機(株)	西村	工場見学、講演会
1 2 / 1 2	水口町良質米研究会	東浦	新施策勉強会
1 2 / 1 5	あじさいネットワークフォーラム準備委員会	なごやかG伴、林	フォーラム、食育
1 2 / 1 7	「特別栽培米」水口地区研修会	林	18年産生育概況と次年度にむけて



貸借対照表

農事組合法人酒人ふぁーむ

2006年12月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	41,555,803	【流動負債】	17,768,266
現金・預金	16,786,258	短期借入金	6,000,000
売掛金	9,283,670	未払金	11,682,966
農産物	56,898	預り金	15,300
棚卸品	607,625	未払法人税等	70,000
未収金	7,048,191	【固定負債】	69,500,981
仮払金	7,773,161	長期借入金	68,237,366
【固定資産】	69,707,144	農用地利用集積準備金	1,263,615
【有形固定資産】	69,594,292		
建物	42,943,295	負債の部合計	87,269,247
構築物	1,753,502		
機械装置	15,338,540	資本の部	
農機具	30,884,005	【資本金】	4,480,000
車両運搬具	330,000	出資金	4,480,000
工具器具備品	672,000	【利益剰余金】	19,513,700
減価償却累計額	22,327,050	利益準備金	4,480,000
【投資その他の資産】	112,852	当期末処分剰余金	15,033,700
外部出資金	50,000	(うち当期剰余金)	15,033,700
保険積立金	62,852		
		資本の部合計	23,993,700
資産の部合計	111,262,947	負債・資本合計	111,262,947

損益計算書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2006年 1月 1日 至 2006年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
【事業損益の部】		
【事業収益】		
【販売高】		
販 売 高	45,386,083	
奨 励 助 成 金	14,855,444	
販 売 高 合 計		60,241,527
【事業費用】		
【生産原価】		
期首農産物棚卸高	270,908	
当期農産物原価	40,690,546	
合 計	40,961,454	
期末農産物棚卸高	56,898	
事 業 原 価		40,904,556
事 業 総 利 益		19,336,971
【事業管理費】		
事業管理費合計		4,879,052
事 業 利 益		14,457,919
【事業外損益の部】		
【事業外収益】		
受 取 利 息	380	
受 取 配 当 金	350	
雑 収 入	2,437,734	
事 業 外 収 益 合 計		2,438,464
【事業外費用】		
支 払 利 息	1,225,376	
雑 損 失	127,507	
事 業 外 費 用 合 計		1,352,883
経 常 利 益		15,543,500
税引前当期純利益金額		15,543,500
法 人 税 等		509,800
当 期 純 利 益 金 額		15,033,700

事業管理費内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2006年 1月 1日 至 2006年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
福 利 厚 生 費	66,548	
教 育 ・ 研 修 費	110,000	
旅 費 交 通 費	46,400	
通 信 費	150,994	
交 際 費	399,397	
諸 会 費	262,500	
水 道 光 熱 費	27,134	
賃 借 料	137,000	
事 務 用 消 耗 品 費	359,465	
修 繕 費	21,000	
租 税 公 課 費	1,565,443	
雑 費	159,806	
税 務 顧 問 料	309,750	
集 積 準 備 金 繰 入	1,263,615	
事 業 管 理 費 合 計		4,879,052

事業原価内訳書

農事組合法人酒人ふぁーむ

自 2006年 1月 1日 至 2006年12月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
【総事業費用】		
【資材費】		
種 苗 費	4,591,626	
肥 料 費	4,828,051	
農 薬 費	2,095,800	
諸 材 料 費	784,368	
合 計	12,299,845	
資 材 費 合 計		12,299,845
【労務費】		
農 業 労 災 費	272,965	
労 務 費 合 計		272,965
【その他生産費】		
農 具 費	0	
作 業 委 託 料	1,413,850	
土 地 改 良 水 利 費	2,812,860	
動 力 光 熱 費	1,674,481	
修 繕 費	3,788,296	
荷 造 運 賃 発 送 費	1,276,604	
租 税 公 課	0	
機 械 賃 借 料	323,000	
機 械 リ ー ス 料	1,950,496	
年 貢 料 (借 地 料)	5,935,265	
生 産 調 整 拠 出 金	1,522,303	
農 業 共 済 費	986,472	
雑 費	254,003	
減 価 償 却 費	6,180,106	
そ の 他 生 産 費 合 計		28,117,736
当 期 事 業 原 価		40,690,546
合 計		40,690,546
当 期 農 産 物 原 価		40,690,546

剰余金処分案

(単位:円)

当期末処分剰余金の処分

項 目	金 額
当期末処分剰余金の処分	15,033,700
合 計	15,033,700
これを次のとおり処分する	
従事分量配当金	15,033,700
次期繰越剰余金	0

以上のとおり報告します。

2007年 2月25日

農事組合法人酒人ふぁーむ

代 表 理 事	東 浦 常 夫
理 事	小 林 伊 佐 治
理 事	林 信 博
理 事	福 西 義 幸
理 事	坂 田 精 平
理 事	伴 慎 也
理 事	西 村 清 秋

附属明細書

平成18年度予算実績対比表

自2006年1月1日～至2006年12月31日

(単位千円)

勘定科目	平成18年度予算額		実績額		差異金額	
	金額	金額/反	金額	金額/反	金額	金額/反
[耕作面積]	換算385.0反		換算385.0反			
[事業収益]						
[販売高]						
販売高	54,000	140	45,386	118	-8,614	-22
奨励・助成金	15,000	39	14,855	39	-145	0
販売高合計	69,000	179	60,241	156	-8,759	-23
[事業費用]						
[期首農産物棚卸]	271		271		0	
[期末農産物棚卸]	271		56		-215	
[資材費]						
[生]種苗費	5,500	14	4,592	12	-908	-2
[生]肥料費	5,300	14	4,828	13	-472	-1
[生]農薬費	2,500	6	2,096	5	-404	-1
[生]諸材料費	500	1	784	2	284	1
生産資材費合計	13,800	36	12,300	32	-1,500	-4
[労務費]						
[生]農業労災費	200	1	273	1	73	0
労務費合計	200	1	273	1	73	0
[その他生産費]						
[生]動力光熱費	2,000	5	1,674	4	-326	-1
[生]修繕費	5,000	13	3,788	10	-1,212	-3
[生]機械賃借料	700	2	323	1	-377	-1
[生]年貢料(借地料)	6,000	16	5,935	15	-65	0
[生]作業委託料	2,100	5	1,414	4	-686	-2
[生]土地改良水利費	2,800	7	2,813	7	13	0
[生]農業共済費	1,000	3	986	3	-14	0
[生]生調拠出金	1,800	5	1,522	4	-278	-1
[生]機械リース料	2,000	5	1,950	5	-50	0
[生]荷造運賃送料	1,800	5	1,277	3	-523	-1
[生]雑費	500	1	254	1	-246	-1
[生]減価償却費	6,300	16	6,180	16	-120	0
その他生産費合計	32,000	83	28,116	73	-3,884	-10
事業費用合計	46,000	119	40,904	106	-5,096	-13
[事業総利益]	23,000	60	19,337	50	-3,663	-10
[生]労務費(従事分量配当)	16,000	42	15,034	39	-966	-3
[改め事業総利益]	7,000	18	4,303	11	-2,697	-7
[事業管理費]						
[管]福利厚生費	100		67		-33	
[管]旅費交通費	150		46		-104	
[管]通信費	150		151		1	
[管]交際費	200		399		199	
[管]支払手数料	50		0		-50	
[管]諸会費	250		263		13	
[管]水道光熱費	50		27		-23	
[管]賃借料	150		137		-13	
[管]教育・研修費	100		110		10	
[管]事務用消耗品費	350		359		9	
[管]修繕費	100		21		-79	
[管]租税公課	2,000		1,565		-435	
[管]雑費	300		160		-140	
[管]税務顧問料	350		310		-40	
[管]農用地利用集積準備金	2,300		1,264		-1,036	
事業管理費合計	6,600	17	4,879	13	-1,721	-4
[事業利益]	400	1	-576	-1	-976	-3
[事業外損益]	900		1,086	3	186	3
[経常利益]	1,300	3	510	1	-790	-2

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

平成18年度事業実績明細表

自 2006/1/1 ~ 至 2006/12/31

単位:千円

勘定科目	米作		麦作		大豆		野菜		ハウス野菜		育苗	共通	合計
[耕作面積]	212.8反		156.0反		133.1反		23.0反		3.0反				
[事業収益]													
事業高	26,862	126	4,422	28	6,037	45	2,397	104	3,447	1,149	3,071	-2,923	43,313
その他売上高	1,913	9	0	0	7	0	0	0	0	0		154	2,074
奨励助成金	3,366	16	5,508	35	3,986	30	1,624	71	0	0	371		14,855
売上高合計	32,141	151	9,930	64	10,030	75	4,021	175	3,447	1,149	3,442	-2,769	60,242
事業原価													
期首棚卸	70				144								214
[資材費]													
[生]種苗費	3,059	14	418	3	149	1	1,605	70	165	55	2,119	-2,923	4,592
[生]肥料費	2,085	10	1,341	9	673	5	542	24	187	62			4,828
[生]農薬費	1,147	5	177	1	329	2	420	18	22	7			2,095
[生]諸材料費	291	1	0	0	6	0	158	7	329	110	0		784
資材費合計	6,582	31	1,936	12	1,157	9	2,725	118	703	234	2,119	-2,923	12,299
[労務費]													
[生]労災保険費	112	1	79	1	68	1	11	0	3	1	0	0	273
労務費合計	112	1	79	1	68	1	11	0	3	1	0	0	273
[経費]													
[生]動力光熱費	687	3	486	3	419	3	67	3	16	5		0	1,675
[生]農具修繕費	1,553	7	1,099	7	947	7	151	7	38	13		0	3,788
[生]機械賃借料	0	0	0	0	0	0	263	11	0	0		60	323
[生]年貢料(借地料)	3,647	17	1,170	8	998	7	75	15	45	15			5,935
[生]作業委託料		0	789	5	625	5		0	0	0		0	1,414
[生]農業水利費	1,553	7	569	4	486	4	168	7	22	7		14	2,812
[生]農業共済費	-10	-0	204	1	154	1	0	0	0	0	39	600	987
[生]生調拠出金	1,522	7	0	0	0	0	0	0	0	0			1,522
[生]リース料	863	4		0		0		0	544	181	544		1,951
[生]荷造発送費		0	143	1	0	0	523	23	610	203			1,276
[生]減価償却費	2,534	12	1,792	11	1,545	12	247	11	62	21			6,180
[生]雑費	0	0	0	0	6	0	0	0	3	1		246	255
[生]共通費	377	2	267	2	230	2	37	2	9	3	0	-920	0
経費合計	12,726	60	6,519	42	5,410	41	1,531	67	1,349	450	583	0	28,118
事業原価合計	19,420	91	8,534	55	6,635	50	4,267	186	2,055	685	2,702	-2,923	40,904
事業総利益	12,721	60	1,396	9	3,395	26	-246	-11	1,392	464	740	154	19,338
[生]労務費	5,632	26	1,814	12	2,484	19	2,326	101	2,777	926		0	15,033
改め事業総利益	7,089	33	-418	-3	911	7	-2,572	-112	-1,385	-462	740	154	4,305
[事業管理費]	2,000	9	1,415	9	1,220	9	195	8	49	16	0	0	4,879
事業利益	5,089	24	-1,833	-12	-309	-2	-2,767	-120	-1,434	-478	740	154	-574
[事業外損益]	445	2	315	2	271	2	43	2	11	4	0	0	1,085
経常損益	5,534	26	-1,518	-10	-38	-0	-2,724	-118	-1,423	-474	740	154	511

(注)従事分量配当金は労務費として計算しています。

監 査 報 告 書

平成 19 年 2 月 17 日

農事組合法人酒人ふぁ～む
代表理事 東浦 常夫 様

監 事 谷口 榮治

監 事 奥村 信行

私たち監事は、平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日までの第 5 期事業年度の理事の職務の遂行、事業報告書、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案並びに附属明細書について監査しました。その結果につき以下のとおり報告いたします。

- (1) 貸借対照表及び損益計算書は、法令及び定款に従い、組合の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、組合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 剰余金処分案は、法令及び定款に適合しており、組合財産の状況及びその他の事情に照らし、指摘すべき事項は認められません。
- (4) 附属明細書については、特に指摘すべき事項は認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

以上

平成19年度事業計画書

第三次3ヶ年事業計画（平成17～19年）

〔基本テーマ〕

「自立」と「自律」 夢（ビジョン）の具現化

〔理念〕

1. 人づくり
2. 組織づくり
3. 産地づくり
4. 地域づくり

〔基本方針〕

1. 「儲かる」から「儲ける」へ
2. 「売れる」から「売る」へ
3. 「できる」から「作る」へ
4. 「参加」から「参画」へ
5. 「集落」から「地域」へ

当地の視察が殺到しているのはなぜか。量から質への米政策の大転換で、各集落ともこれからの方向性を探るべく必死だからである。さて我が組合も安穩とはしているわけにはいかない。今は集落営農の1つのモデルとして注目されるだけにすぎず、新たなビジネスモデルに向け、必死に知恵をしばらなければ逆に取り残されてしまう。この3ヶ年が組合の将来を左右する大変重要な時期であることは言うまでもない。「何をしてきた」ではなく「何をするのか」が大事であると考え。ハードが完成した今、これからが真の実践3ヶ年となる。

これまでは、関係機関のお力添えで進めば良かったが、これからは自らが考え、自らの力で進める強固な組織でなければならない。そのためには、生産方法と販売方法を根本的に見直し、自らが「作り」自らが「売る」という基本的な仕組みづくりの確立が急務となる。

変化をチャンスと捉え、リスクに対しても果敢に挑戦し、集落営農基盤を確固たるものにし、後世に夢が継承できるよう業務に邁進する。

滋賀らしい「農地・水・環境保全向上対策」
世代をつなぐ農村まると保全向上対策

1. 基本的な考え方

農地・農業用水等の資源は、食料の安定供給、農業の多面的機能の発揮を支える「社会共通資本」である。「地域共同」の取組により保全管理される資源である。

この資源は、「生産資源」としての役割と、「環境資源」としての役割をもつ。

2. 対策のしくみ

実施期間：平成19年度～23年度

共同活動への支援	農地・水・農村環境の保全と質的向上のための効果の高い共同活動
営農活動への支援	地域の環境保全に向けたまとまりのある先進的な営農活動

3. 共同活動への支援

対象地域の設定と活動組織づくり（規約の策定）

活動計画づくり

国が標準的な指針を示し、地方が地域の特性をふまえた独自の活動項目を追加した活動指針に照らして作成する。活動計画のガイドラインとして活動指針を策定する。

市町村との協定締結

支援要件

要件の区分			支援に必要な条件	
体制要件	規約		活動組織規約を策定	
	協定		市町村と協定を締結	
活動要件（活動指針）	基礎部分	資源の適切な保全管理	点検活動	地域活動指針の全項目を実施（必須要件）
			計画策定	
			実践活動	
	誘導部分	農地・水向上（施設の長寿命化など）	機能診断	
計画策定				
実践活動			水質保全＋生態系保全＋景観形成を必ず実施（必須要件） 水質保全については、濁水ゼロ対策に係る活動を必ず実施（選択的必須要件）	
農村環境向上（生態系、景観など）	計画策定			
		啓発・普及		
		実践活動		
	高度な農村環境向上活動	地域実情で選択	7.水質浄化池、浄化型水路の機能維持増進活動 イ.その他地域協議会が「高度」と認める活動	

支援単価（10a当たり単価）

	支援単価 （滋賀らしい取り組み）	高度な環境保全活動を含む場合の支援単価 （高度な滋賀らしい取り組み）
水田	3,300円/10a	4,400円/10a
畑	2,100円/10a	2,800円/10a
草地	300円/10a	400円/10a

促進費の交付

より高度な取組を行う活動組織には、取組水準に応じて一地区あたり20万円/年から40万円/年の促進費が交付される。

高度な農地・農業用水等の資源の保全活動	カバープランツの植栽（除草作業省力化）など
質の高い農村環境保全活動	自主施工による魚道設置、畦畔嵩上げなど
安定的な共同活動の枠組みの構築	活動組織のNPO法人化

4. 営農活動への支援

【要件】 「共同活動への支援」地域であること（共同活動と一体的に行う取組であること）

地域全体の農業者による環境負荷低減に向けた取組であること

化学肥料と化学合成農薬の使用を地域慣行から5割以上減らすこと

エコファーマーの認定をうけること

地域で一定のまとまりをもった取組であること

まとまり要件（取組実態に応じて次のどちらかを選択）

ア. 各作物ごとにみて～集落等の農家のおおむね5割以上（最低4割）

イ. 作物全体でみて～集落等の作付面積の2割以上かつ農家の3割以上

(1) 先進的営農支援（環境こだわり農業）

活動組織の構成員であること

販売農家であること

販売農家とは経営耕作面積が

30a以上もしくは年間販売金

額が50万円以上の農家のこと

エコファーマーの認定

環境こだわり農産物の栽培

まとまり要件

作物区分	国と地方の合計支援単価
水稲	6,000円/10a
麦・豆類	3,000円/10a
いも・根茎類	6,000円/10a
葉茎菜類	10,000円/10a
果菜類・果実的野菜	18,000円/10a
施設生産のトマト・きゅうり・なす・ピーマン・イチゴ	40,000円/10a
果樹・茶	12,000円/10a
花卉	10,000円/10a
上記区分に該当しない	3,000円/10a

(2) 営農基礎活動支援（農業排水対策）

支援内容	農談会の開催、水守り当番の設置、実証ほ場の設置など
支援要件	地域内の8割以上の農家が農業排水対策に共同で取り組む 畦塗りまたは畦シート設置、浅水代かき、側条施肥など

1地区あたり支援額20万円（国と地方の合計支援単価）

部門別事業計画

生産部

栽培

今年度より、「品目横断的経営安定対策」を柱として、「米政策改革推進対策」「農地・水・環境保全向上対策」の3政策が一体的に実施されます。これらの政策・情勢を敏感に察知し時代にマッチした取り組みをしております。

すこやかさん、なごやかさん、そしてオペレーター群と役員が一致協力し「安全・安心で良食味しかも低価格」と「三方よし」の食材を消費者に提供してこそ、農業に明日が存在します。

営業部との両輪で「売るために作る」を合言葉に、組合員はもとより、協力グループの皆様全員で今年こそ圃場で良い汗が流せる年にしてまいります。

[重点方針]

1. 儲ける農業の実践 = 原価意識の徹底
2. 品質・環境にこだわった農業の展開 = 「安全・安心・良食味」
3. 新規作物の検討・導入 = 酒人の名に相応しい特産物の開発

[事業計画]

計画の完遂！！

穀類生産計画

水		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
稲	うるち玄米	1,559	540	9.0	84,180	1,403
	小計	1,559	540	9.0	84,180	1,403
	もち(羽二重)玄米	569	540	9.0	30,720	512
	合計	2,128	540	9.0	114,900	1,915

小		栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
麦	農林61号	1,369	240	4.0	32,856	547
	合計	1,369	240	4.0	32,856	547

大豆			栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
				収量 (kg)	俵 (60kg)	総収量 (kg)	出荷量 (俵)
豆	ふくゆたか	種子用	668	180	3.0	12,020	200
		食糧用	733	210	3.5	15,390	256
	合計		1,401	193	3.2	27,410	456

野菜栽培形態別生産計画

露地	品目	栽培面積 (a)	10a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
地	ブロッコリー	130.0	525	(5kg) 100箱	9,750	1,950箱
	白菜	30.0	4,500	(15kg) 300箱	13,500	900箱
	キャベツ	30.0	2,500	(10kg) 250箱	3,360	750箱
	えびす南瓜	70.0	1,400	(10kg) 140箱	18,480	980箱
	玉ねぎ	30.0	3,500	3,500kg	10,500	9,000kg

ハウス	品目	栽培面積 (a)	1a当り		生産量	
			収量 (kg)	出荷量	総収量 (kg)	出荷量
ス	小松菜	20.3	120	(200g) 600袋	2,400	12,000袋
	ほうねん草	1.8	150	(200g) 750袋	270	1,350袋
	サニーレタス	14.6	150	(250g) 600袋	2,190	8,760袋
	トマト	4.0	400	(4kg) 100箱	1,600	400箱
	みず菜	16.7	150	(200g) 750袋	2,505	12,525袋

耕畜連携稲わら生産計画 (JA稲わら生産供給組合)

稲わら			採集面積 (a)	10a当り		生産量	
				収集量 (kg)	梱包 (10kg)	総収集量 (kg)	出荷量 (梱包)
ら	飼料用稲わら		1,500	400	40	60,000	6,000
	合計		1,500	400	40	60,000	6,000

[栽培計画]

露地野菜

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
35-2 95a (すこやか)						かぼちゃ 80a				白菜 30a			
					キャベツ 15a					キャベツ 35a			
										ブロッコリー 30a			
29-1 79a (すこやか)				玉ねぎ 30a					ブロッコリー 30a				
				ブロッコリー 30a					ブロッコリー 36a				
				キャベツ 30a					ブロッコリー 30a				
憩いの広場 東 6a (すこやか)				ブルーベリー 6a									

ハウス野菜

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ハウス 1 4.88a (なごやか)	サニー	レタス		水稲育苗			こまつな 水菜		こまつな 水菜		サニー	レタス	
ハウス 2 4.28a (なごやか)		こまつな 水菜			こまつな ほうれん草			トマト				サニー	レタス
ハウス 3 3.75a (なごやか)	こまつな サニー	レタス		水稲育苗			こまつな 水菜		こまつな 水菜		サニー	レタス	
ハウス 4 3.15a (なごやか)		こまつな 水菜			水稲育苗			こまつな 水菜		こまつな 水菜		サニー	レタス
ハウス 5 2.17a (すこやか)	花卉 (小菊)							花卉 (小菊)					
ハウス 6 1.12a (すこやか)								各種野菜苗 育苗					

労 務

今年度より、一層環境に配慮した農業がスタートします。我が組合も 集落と連携した取組を今日まで以上に強化していきます。

昔から農の匠たくみは「美味しい」「うまい」の言葉に魅了されて、己のためでなく、広く消費者のために手間ひま惜しまず汗を流されたと聞きます。

さて、昨今の農業はどうでしょうか。農産物価格の低迷から、再生産原価すら割り込む状況が続いております。「売価」に見合った「コスト」が、経営を維持するうえでの最低条件となり、「生産原価」はもとより「労務対応」や「工程管理」が経営の最重要課題と言われます。コスト意識にたちながらも、共に喜びあえる労務管理を行いますので、組合員はもとより各グループの皆様、一層のご協力よろしく申し上げます。

[重点方針]

- 1 . 生産コストの低減 = 効率作業の徹底
- 2 . 作業環境の向上

[事業計画]

コストへの挑戦！！

作業別労働（時間）計画

（単位：時間）

作業 月	水稻	稲わら	小麦	大豆	露地野菜	ハウス野菜	共通作業	合計
1月	90		20	100	280	150	220	860
2月	100		30	1,200	150	160	300	1,940
3月	150		30	100	200	300	200	980
4月	300		40		250	200	130	920
5月	700		150		350	300	120	1,620
6月	200		200	120	400	350	120	1,390
上期	1,540	0	470	1,520	1,630	1,460	1,090	7,710
7月	550			250	450	260	210	1,720
8月	220			190	400	340	100	1,250
9月	400	110		90	400	330	100	1,430
10月	550	300		20	250	300	140	1,560
11月	150	100	230	30	400	250	100	1,260
12月	150	50	20	120	450	100	130	1,010
下期	2,020	560	250	700	2,350	1,580	780	8,230
合計	3,560	560	720	2,220	3,980	3,040	1,870	15,950

営 業 部

相次ぐ視察で当法人の知名度は高まってきています。しかし、組織や集落営農そのものだけが一人歩きをしてしまい、肝心の生産物に対する認知度は極めて低いと言わざるを得ません。残念ながら評価されているのは、システムだけであって、モノではありません。有名になったことに錯覚をして、売するための努力を怠ってきた結果なのです。

しかし、悲観する必要はありません。本格的な活動ができなかったものの、この部を立ち上げ、着実に足場を固めています。あとは、行動あるのみです。また、その知名度を営業に活かせるからです。消費者は「顔の見える生産者」に安心・安全・信頼を求めます。この「顔」を武器に、まずは地元から商品を知っていただくことから始めます。

[重点方針]

昨年度の反省にたち、「できることからやる」を合言葉にまず足元を固めます。遠方の「視察者」より、地元地域の「消費者」にいかにかアピールするかが課題です。消費者の目線に立ち、「農作物」ではなく「商品」であるという意識で売らなければ支持は得られません。今年度は、「売るための方策」を組合員皆様と一緒に考え、全員営業体制を目指します。

[事業計画]

1. 先進地の「営業」に学ぶ

視察を受け入れるだけでなく、原点に帰り先進地の勉強をし、当地域に合った営業スタイルを探ります。

2. 地元を優先した直売活動

こだわり米の宣伝と販売からスタートします。区民の皆様の協力を頂き、「縁故米販売促進運動」を展開します。

近隣住宅団地へのローラー活動

ポスティングによる「酒人米」の周知宣伝活動から、口コミや紹介を広げます。同時に市場調査をおこない、ニーズを探ります。

サンプルによる試食米の提供

地元産米の良さを伝えるために、少量袋による試食米を開発します。風袋デザインやネーミングも検討します。

収穫祭などのイベントで商品を広くアピールします。

3. 新しい販路の開拓

直販とともに、業者への販路を開拓していきます。スーパー、給食事業者、ビジネスホテルなど安定需要先にアプローチします。

4. 「アンテナショップ」設置の検討

販路の確保とあわせて、自ら売するための拠点として設置の検討をします。

穀類市場（マーケット）別販売計画

水	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
	うるち玄米		753	12,000	9,036,000
	もち（羽二重）玄米		482	15,000	7,230,000
	小 計		1,235	-	16,266,000
稲	直 販		販売量（俵）	販売単価（円/俵）	販売高（円）
	うるち玄米		650	16,000	10,400,000
	もち（羽二重）玄米		30	20,000	600,000
	小 計		680	-	11,000,000
	合 計		1,915	-	27,266,000

小麦	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）
	農 林 6 1 号		547	8,000	4,376,000
	合 計		547	-	4,376,000

大豆	業 販		出荷量（俵）	出荷単価（円/俵）	販売高（円）	
	ふくゆたか	種子用	150	27,000	4,050,000	
		食糧用	295	13,000	3,835,000	
		小 計	445	-	7,885,000	
	直 販	ふくゆたか		販売量（俵）	販売単価（円/俵）	販売高（円）
		種子用		10	27,000	270,000
食糧用		1	8,000	8,000		
小 計		11	-	278,000		
合 計		456	-	8,163,000		

野菜栽培形態別販売計画

露地	品 目	出荷量	売価単価（円）	販売高（円）
	ブロッコリー	1,950 箱	1,300	2,535,000
	白 菜	900 箱	600	540,000
	キャベツ	750 箱	500	375,000
	えびす南瓜	980 箱	1,000	980,000
	玉 ね ぎ	9,000 kg	45	405,000
	切花（小菊）	600 束	150	90,000
	小 計			4,925,000

	品 目	出 荷 量	売価単価 (円)	販売高 (円)
ハ ウ ス	小 松 菜	12,000 袋	70	840,000
	ほうれんそう	1,350 袋	80	108,000
	サニーレタス	8,760 袋	60	525,600
	ト マ ト	400 箱	1,000	400,000
	み ず 菜	12,525 袋	60	751,500
	小 計			2,625,100
	合 計			7,550,100

野菜市場 (マーケット) 別販売計画

品 目	業 販				直 販				合 計	
	大津・京都市場出荷		水口地方卸売市場		花野果市JA直売所		イベント・直売		数量 (-)	販売高 (千円)
	数量 (束、箱)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)	数量 (袋、束、個)	販売高 (千円)	数量 (束、個、箱)	販売高 (千円)		
ブロッコリー	1,600	2,100	70	75	2,400	240	1,200	120	1,950	2,535
白 菜	500	300	96	45	1,600	130	800	65	900	540
キャベツ	600	300			400	40	400	35	750	375
えびす南瓜	900	940			180	30	60	10	980	980
玉ねぎ	8,400	380	100	5	300	15	100	5	9,000	405
切花(小菊)					600	90			600	90
小松菜	9,700	680	300	20	2,000	140			12,000	840
ほうれん草	500	40			850	68			1,350	108
サニーレタス	7,850	470	160	10	750	45			8,760	525
トマト	50	50	50	50	800	200	400	100	400	400
みず菜	12,000	730			325	22			12,525	752
合 計		5,990		205		1,020		335		7,550

業販=JA・市場等への業者を通じた販売、直販=直売所、ネット等を通じた直接販売

耕畜連携稲わら販売計画 (JA 甲賀郡稲わら生産供給組合)

稲 わ ら	業 販		出荷量 (梱包)	出荷単価 (円/梱包)	販売高 (円)
	飼料用稲わら	配 達			
		引 取			
		配 達	5,000	450	2,250,000
		引 取	1,000	315	315,000
	合 計		6,000	-	2,565,000

機械施設部

[重点方針]

作業に連動した機械の整備だけでなく、「売るための機械施設」をメインテーマとし、守りではなく攻めの事業展開を実践してまいります。

[事業計画]

1. 「アンテナショップ」設置計画の検討
営業部と連携をとり、先進的な直売所を調査研究し、当地にあった「売る」ための拠点づくりを目指します。
2. 酒人米の直販によるクリーン精米事業の底上げ
原則、お客様にお越しいただき、白米希望者には当精米所のご利用を勧め、コイン精米のリピーターを増加させます。
3. オペレーターの操作技術向上
昨年度の反省を活かし、操作技術指導や圃場での実地研修を実施し、若手オペレーターのレベルアップを図ります。
また生産部と連携して、オペレーターの出役体制も見直します。
4. 機械施設の整備管理能力向上
JAとは機械の保守契約を締結しているものの、急を要するトラブル対応や機械の長持ちにもつながる整備知識の習熟講習を実施します。
5. 売るための仕掛けづくりにチャレンジ
お客様からの注文を一元管理し、発送サービスや配達サービスで付加価値をつけます。
生産部の事業計画に基づき必要に応じて、野菜栽培・大豆中耕専用管理機や大豆選粒機の導入を検討します。その際には、国庫補助事業「強い農業づくり交付金」(補助1/2)を活用します。



企画管理部

[重点方針]

部門の垣根を越えた、全員協力体制で組織のステップアップを図り、自らが「作り」自らが「売る」という、3ヵ年計画の基本テーマである「自立」した組織づくりのため、企画・管理面でのサポート役に徹してまいります。

[事業計画]

1. 「農地・水・環境保全向上対策」

今年度より、県の環境こだわり農産物制度が国の制度となるため、さる1月16日に、エコファーマー申請手続きを終えました。引続き環境こだわり農産物の栽培と、集落と一体となった環境保全活動を展開していきます。

2. 営業体制づくり

機構改革による営業部の新設により、意識が変わりつつあります。今年度は、営業部と連携して実績の残せる体制をつくります。

3. 資金繰りの健全化

農業政策の変化や生産方法の変更で、売上金の回収時期が変わり、資金計画に差異が生じた場合、その都度短期の借入で賄ってきました。

生産部や営業部との連携を密接にし、作付け計画段階で当部も関与し、資金回収期間の短縮と分散化をはかり、資金繰りに余裕をもたせます。

また、作業内容による賃金体系を見直し、従事分量配当を含めた経費削減を検討します。

4. 農業経営基盤強化準備金の活用（19年度税制改革）

農用地利用集積準備金（廃止）

特定農業法人が、農業収入の9%を準備金（損金）として積み立て、5年以内に農地の取得や機械・施設の設備投資のために取り崩した場合には、取得額を圧縮記帳し損金算入することで税の繰り延べができる

農業経営基盤強化準備金（新設）

担い手が、品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全向上対策にかかる交付金等を準備金（損金）として積み立て、5年以内に農地の取得や機械・施設の設備投資のために取り崩した場合には、取得額を圧縮記帳し損金算入することで税の繰り延べができる

5. 収穫感謝祭の実施（11月予定）

集落構成員のコミュニケーションの場をつくり、ムードを盛り上げます。

財務計画・損益計画(平成19年)

(単位:千円)

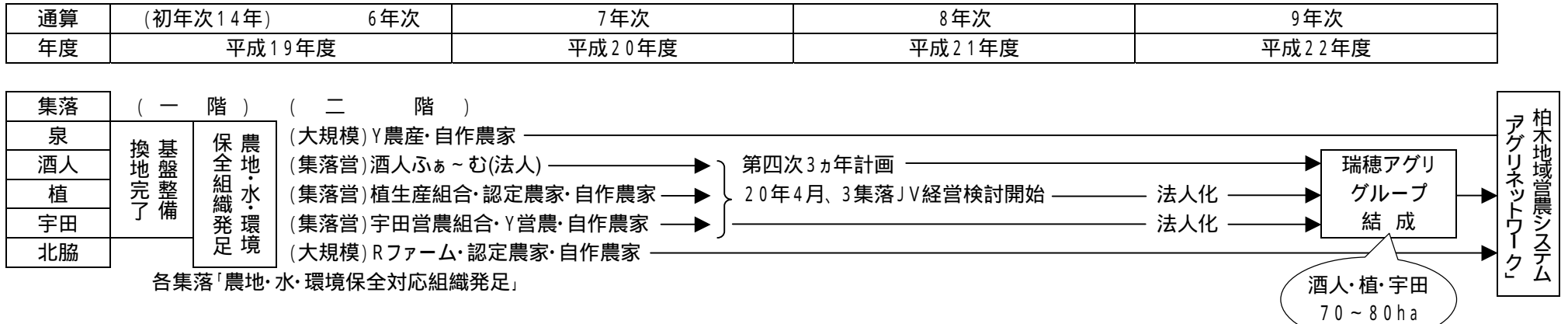
	科 目	平成18年残高	平成19年度			平成20年度繰越		
			増	減	残	残		
貸	流動資産	41,556	70,321	72,202	39,675	39,675		
	現金預金	16,786	51,515	54,263	14,038	14,038		
	その他	24,770	18,806	17,939	25,637	25,637		
	固定資産	69,594	0	6,300	63,294	63,294		
	借	外部出資他	113			113	113	
		資産の部計	111,263	70,321	78,502	103,082	103,082	
		流動負債	17,768	11,000	11,767	17,001	17,001	
		固定負債	69,501	1,200	8,580	62,121	62,121	
	対	集積準備金	1,264	1,200		2,464	2,464	
		長期借入金	68,237		8,580	59,657	59,657	
照	資本の部	23,994	15,000	15,034	23,960	23,960		
	出資金	4,480			4,480	4,480		
	利益剰余金	19,514	15,000	15,034	19,480	19,480		
	利益準備金	4,480	0		4,480	4,480		
	当期剰余金	15,034	15,000	15,034	15,000	15,000		
	前期繰越剰余金	0						
	表	負債・資本計	111,263	27,200	35,381	103,082	103,082	

	科 目	平成18年残高	平成19年度			平成20年度繰越	
			増	減	残	残	
損	事業収益						
	販売高		66,000		66,000		
	総事業費用						
	生産資材費		14,300		14,300		
	労務費		400		400		
	その他生産費		31,500		31,500		
	(減価償却費)		6,300		6,300		
	事業費用合計		46,200		46,200		
	< 事業総利益 >		19,800		19,800		
	計	事業管理費					
共通管理費			5,000		5,000		
(農用地集積準備金繰入)			1,200		1,200		
< 事業利益 >			14,800		14,800		
算	事業外損益		400		400		
	営業外収益		1,800		1,800		
	営業外費用		1,400		1,400		
	< 経常利益 >		15,200		15,200		
	法人税等		200		200		
	< 当期剰余金 >		15,000		15,000		
書	(従事分量配当)		15,000		15,000		

地域営農計画 (平成14年素案策定)

長期計画 : 旧村を単位とした「地域営農システム」の形成…… 共益が私益を生み公益につながる
 中期計画 : 集落営農3組織の業務連携…… 酒人・植・宇田(新政策への対応と低コスト農業・アグリビジネスへの参画)

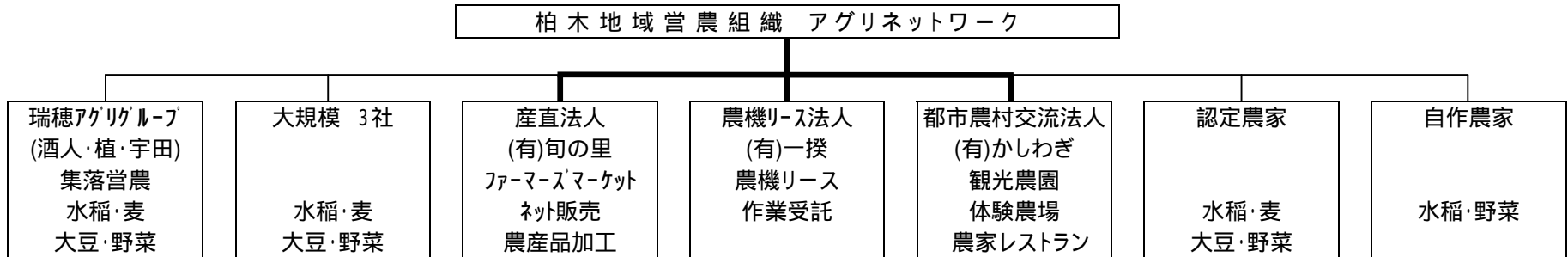
地域営農システムフロー図



農事組合法人 酒人ふぁ～む

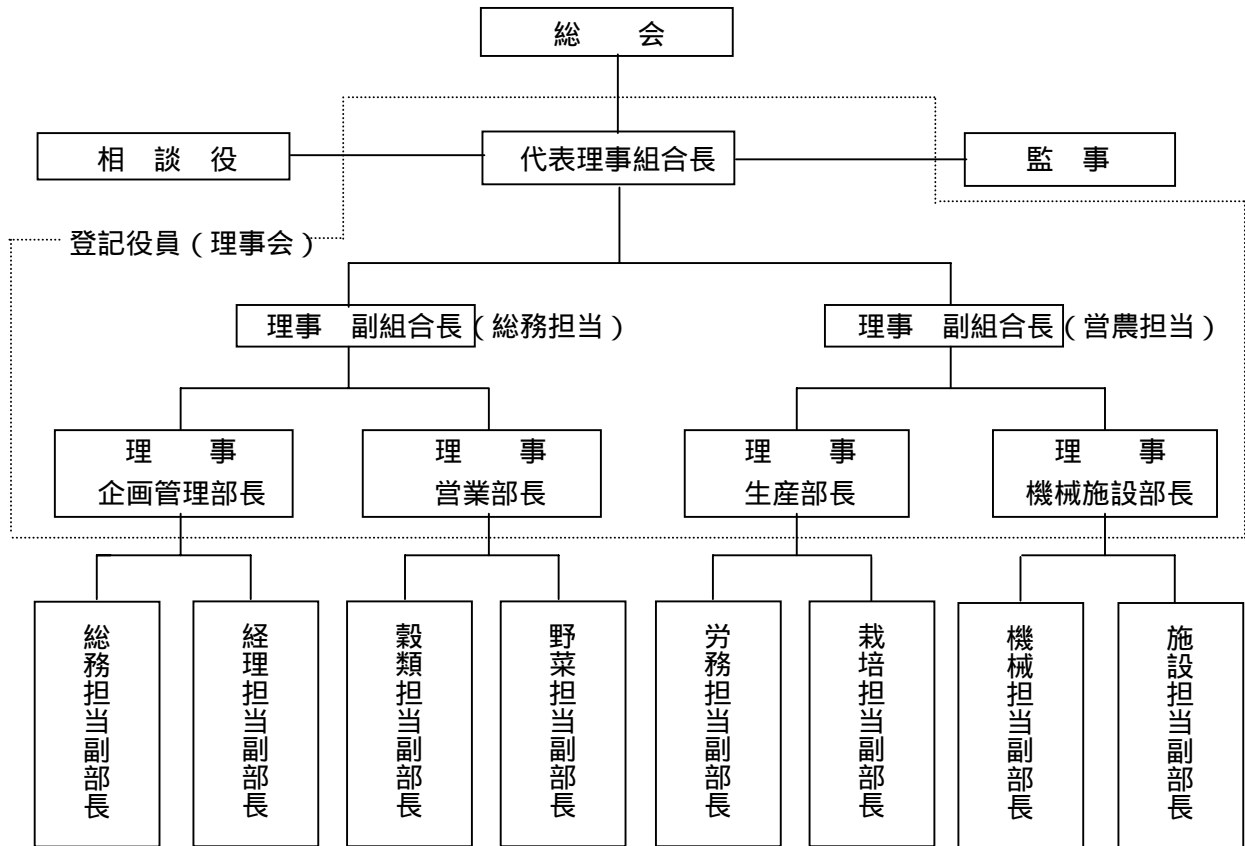
平成19年度	第三次3ヵ年計画	平成20年度	第四次3ヵ年計画	平成21年度	第四次3ヵ年計画	平成22年度	第四次3ヵ年計画
野菜生産体制の確立 (特産品の開発)		アグリネットワーク検討開始～ 酒人・植・宇田3集落JV経営検討開始～		(理事改選)		瑞穂アグリグループ参画	
営業体制の確立 (販路拡大・積極営業)		直売所(アンテナショップ)開設		パン工房開設		産直法人(有)旬の里開業	
資金計画の再検討 (新政策・直販比率向上対応)		ネット販売強化		ブルーベリー園準備		農家レストラン検討開始	
		野菜加工(漬物)試作開始		農機リース検討開始		加工食品販売開始	
		観光農園検討開始		ハーブ園 花卉栽培検討開始			

地域営農ネットワーク



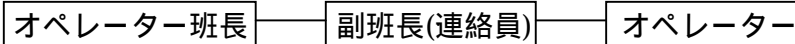
農事組合法人酒人ふぁ～む組織図

平成19年2月25日現在



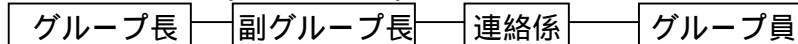
酒人ふぁ～む協力組織

オペレーターグループ (ふぁ～む直轄)



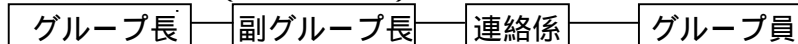
酒人区内に居住し、集落営農の趣旨に賛同し、オペレーターとして出役が可能で営農意欲のある20歳以上55歳以下の男子（登録制）

なごやか営農グループ (組合員組織)



酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務（作業）に出役頂ける56歳以上65歳未満の男子及び20歳以上65歳未満の女子

すこやか営農グループ (組合員組織) ~ 酒人老人会のメンバー



シルバー世代の酒人区住民で、集落営農の趣旨に賛同し、組合の業務（作業）の一部を担当頂くグループ

やすらぎ営農グループ (ボランティア) ~ 酒人敬老会の大関・横綱グループ

囲炉裏端会議のメンバーで、雑草取りの名人



農事組合法人 酒人ふぁ～む

2007/02/25